

夢に向かって

西村 優希
 (福岡看護大学第3学生)



入学してから2年がたつ。この1年は新型コロナウイルスに振り回された年であった。大学は休校になり、再開されてからはオンライン授業が新たに始まった。突然

の環境の変化に対し、特に入学したばかりの1年生は

戸惑うことも多いかったのではないだろうか。私自身もやりたいことが思うようにできず、もどかしい思いをした。

しかし、そのような日々だからこそ得たものもあった。

それは、メディアなどで見た新型コロナウイルスと闘う医療従事者の姿から勇気をもらったことである。初めは映像を見ながら、果たして自分にそんな過酷なことができるだろうか、くじけてしまうかも、と思った。しかし、自ら感染するかもしれない不安を抱えながらも、懸命に働いておられる姿に胸を打たれた。そして、大学在学4年間でしっかりと知識と技術を身に着け、卒業したら看護師として、あるいは保健師として人の役に立てるようがんばつていこうと改めて決意した。

3年生では、実習先でさまざまな経験を積んだり、新型コロナウイルス禍で、できなかつたボランティア活動にも積極的に参加したい。後輩の皆さんにも、去年できなかつたことにぜひチャレンジしてほしいと思う。

「今」を大切に

大橋 義文
 (福岡歯科大学 学生後援会 評議員)



私は13期卒業で、早や卒後30年を迎えました。まさに光陰矢の如しです。

その30年間、多くの学生時代の恩師、部活動等で得た友人、先輩、後輩また趣味である魚釣りで出会った仲間に心を支えられました。

そんな折、昨年よりC O V I D - 19の世界的な感染蔓延により約1年間大切な友人と会うこともままならない日々を送っています。

毎日C O V I D - 19による生命の危機、経済的損失等が大きく取り沙汰されていますが、早くもワクチンの接種が世界各国で始まりました。医学界の日進月歩は素晴らしいもので、各研究者に対する尊敬の念に堪えません。

しかしながら特に学生の皆様のような若い世代の方々にとって人生の中でも非常に大切である学び、出会いの時間を失っている現実に懸念を抱いています。

私は「今」という時間は万人に与えられた数少ない公平なものであり、時間をいかに有効に使うかが、個々の「生き方」ではないかと考えています。コロナ禍の「おうち時間」にゆっくりとお楽しみください。

 New Sophia
 コラム

ヤマボウシ



ヤマボウシ(山法師、*Cornus kousa*)はミズキ科ミズキ属ヤマボウシ亜属の落葉高木。九州では山野でふつに見かけるが、街路樹や公園にもしばしば植樹されている。近縁種にアメリカ原産のハナミズキ(花水木、*Cornus florida*)がある。中央区赤坂の国体道路から筑紫女学園に向かう歩道の街路樹が5月頃にピンク色に染まるのを憶えている方も多いのではないかと思うが、ここはハナミズキ通りと呼ばれている。6月頃には雲仙や直方などに群生するヤマボウシが齊に開花し、多くの人を集めるが、長さ5cmほどもある4枚の橢円形の白い花のよう見えるものは総苞片という葉の変形した萼(がく)の部分。本当の花はその中央に集まる小さな球状の集合。山に自生するヤマボウシには、楚々として自己主張はしないながらも、凜とした美しさがある。また、秋には赤く甘い果実をつけてくれるところもいい。見た目だけではなく、芯の通った、とも感じる。

(内藤徹)

編集後記

新緑の匂い立つ、好季節を迎えるました。令和3年度の第1号である第110号をお届けいたします。学園では、昨年の新病院開院に続き、令和4年夏の完成を目指し50周年記念講堂の工事が進められています。本号では他にも福岡学園3大学の卒業式、入学式や教員紹介、イベントなど数多くの話題を掲載しています。コロナ禍の「おうち時間」にゆっくりとお楽しみください。